



発行責任者 亀岡市立病院広報委員会

〒621-8585

京都府亀岡市篠町篠野田1-1

TEL 0771-25-7313

FAX 0771-25-7312

<http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/>

病院理念

- 急性期医療を中心とした適切かつ良質な医療を提供します。
- 患者さまの権利を尊重し、理解と納得に基づいた患者さま中心の医療を行います。
- 地域医療機関と連携し、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み地域医療の向上に貢献します。
- 公共性と経済性を考慮し、市民の理解と信頼を得られる透明性のある病院運営を行います。

CONTENTS

ごあいさつ	1
亀岡市立病院 開院10周年を迎えて	2・3
臨床検査科より	4
糖尿病教室からのお知らせ	5
トピックス	6
ふれあい看護体験記 2014年	
病院職員紹介	6
地域連携医のご紹介	7
ぬくい泌尿器科医院・田村産婦人科医院	
編集後記	8
広報誌読者からのご意見等募集案内	8



ごあいさつ

暦が9月に変わりましたが、亀岡市民の皆様には、つつがなくお過ごしでございますか、お伺い申し上げます。

皆様のご支援をもちまして、本年6月に開院10周年を迎えることが出来、病院関係者一同、感謝しております。

本院で行っている亀岡高齢者外傷予防研究会の調査結果も、3年間に及ぶデータが蓄積されました。大腿骨近位部骨折は、女性が男性の4.2倍多く発生し、特に冬場に高齢女性が受傷する傾向にあることが新たに分かりました。更に、この7月からは15歳以下の子供さん達の外傷予防共同研究も、京都府立医科大学と始めました。

地域の宝である、お子さん達をけがから守る、新しい発見の手伝いが出来ればと願います。

この10年間、急性期病院としての役目を果たす上で、幾多の試練がありましたが、皆様方のご理解とご協力により、地域の住民の健康を守る砦としての働きを何とか果たせることが出来ておりました。しかし、この3月末に残念ながら、開院当初から勤務していた循環器内科医師が転勤し、更に消化器内科専門医師も転職し、この二人の後任医師の確保が出来ないことから、残った常勤医師への仕事が過重にならざる得なくなっております。医師をはじめ、看護師やパラメディカルの医療関係職員だけでなく、事務系職員も含めて、病院職員が一枚岩になって、この危機的な状態を改善し、自治体病院としての使命を果たすべく、努力を続けてまいりたいと考えております。皆様からの、倍旧のご支援をお願いする次第です。



亀岡市立病院 運動器疾患センター
センター長 辻 吉郎

亀岡市立病院 開院10周年を迎えて

亀岡市立病院は、南丹医療圏に不足する医療分野の補完と市民の皆様方からの切実で強い要望により、平成16年6月1日に開院して以来、本年で節目となる開院10周年を迎えることができました。

昭和63年度の「第2次亀岡市総合計画・亀岡健康いきいきプラン」で亀岡市に市立病院が必要施設と位置づけられて以降、「亀岡市医療施設整備研究会」「亀岡の地域医療を考える市民委員会（公募による、通称市民100人委員会）」等を設置し、様々な角度から病院建設の方向性等を議論していき、平成14年8月からは病院建設が開始されました。平成16年6月1日には市民の皆様方の多くの期待に応えられるよう、篠町篠の地に開院しました。

開院して10年間、病院理念を実現するために一步一步足元を固めながら病院運営及び日々の診療を行ってまいりました。適切かつ良質な医療を提供するため、各種委員会、勉強会などを開催し、多くの学会にも参加し職員の知識や技術の向上を図り、医療設備の面では、平成23年3月には最新型CT（京都府内1号機・80列）を導入、平成24年12月には電子カルテシステムが稼働し、患者様のサービス向上に努めております。また、広報誌「桔梗」の発行、亀岡市の広報誌「キラリ★亀岡」の中で「やさしい健康講座」を掲載し、市民の皆様方から信頼され親しまれる病院となるよう努めてまいりました。

今後も患者様の権利を尊重し、理解と納得に基づく医療を提供することを基本に、患者様と医療スタッフの心が通い合う病院づくりに努力してまいりたいと思います。

亀岡市立病院開院10周年記念式典および祝賀会を挙行了いたしました

開院10周年を記念して、「亀岡市立病院開院10周年記念式典および祝賀会」を去る7月27日（日）、ガレリアかめおか大広間にて挙行了いたしました。

式典には、日頃よりお世話になっている亀岡市医師会、京都府立医科大学の関係者、亀岡市議会議員、地元選出の府議会議員、京都府・亀岡市の自治体関係者、元病院職員らの方々と病院職員の約130名が出席、10周年を盛大に祝いました。



市長式辞

はじめに、開設者の栗山亀岡市長が来賓の方々に対する感謝と10年間のあゆみ、亀岡市立病院の今後の方向性、地域医療連携の推進等の新たな決意を述べました。

来賓祝辞

山田啓二京都府知事(代読・山口京都府健康福祉部長)、吉川敏一京都府立医科大学学長、明田昭亀岡市議会議員、田中英夫京都府議会議員、桂川孝裕京都府議会議員、加藤啓一郎亀岡市医師会会長からそれぞれご祝辞をいただき、その期待の大きさに我々職員一同身の引き締まる思いでした。

病院職員による講演

天池医療管理監が座長となり、病院職員による講演会が行われました。開院して10年を振り返り、当院の診療を支える診療部、看護部、診療技術部の代表者が病院の現状、課題、今後の姿勢等々についての講演を行いました。

上田病院長からは「病院理念を遵守することによって変わらないが、地域の小規模の公立病院として開院当初に掲げた病院理念を現実的に見直しつつ、その実現のために努力することが必要である。現在、医師確保が喫緊の課題であり、家庭医的な幅広く診療できる総合性と専門領域の診療を活かす専門性を両立させることができる常勤医師が求められ、多角的な医師確保の方策を実施している。また、亀岡市医師会との連携をより密なものとし、専門性を活かした自由度の高い病病連携を強化していくことが必要である。」と今後の方向性と課題などの話がありました。



閉式の辞

閉式の辞では、坂井病院事業管理者より来賓の方々へ謝辞を述べるとともに「これからの日々もしっかりと歴史を刻み、公的病院として使命を全うすべく職員一同気持ちを新たに一層邁進していきたい。また、病病連携、病診連携をしっかり高めていくことが重要であり、医療を取り巻く環境は社会経済情勢、人口構造状況と相俟って中小病院には大変厳しい状況だが、当院に課せられた役割を果たし、必要とされる病院作りに益々貢献していきたい。」と述べ、式典は終了しました。



祝賀会

引き続き、祝賀会が開催されました。開会に当たり上田病院長から出席者の方々に対する感謝の挨拶後、大槻秧司亀岡病院会長(亀岡市立病院運営委員会 委員長)の発声で乾杯、晴れやかに祝賀会がスタートしました。祝賀会は和やかな雰囲気の中で進んでいき、開院10周年を祝いました。最後に天池医療管理監が閉会の挨拶を述べ、祝賀会が閉会となりました。

式典、祝賀会が終わり、改めて病院に対する期待が大きいものと感じました。

今後とも市民の皆様方、地域の医師、市内医療機関からのご期待に応えられるよう、これまで以上に地域医療の向上に努め、健全な経営を計画的に進めてまいりますので、格別のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



亀岡市立病院 管理部 経営企画課

臨床検査科より

＝検査項目ワンポイント解説＝

皆さまが健康診断などの結果を受け取られた時に、よく見られる検査項目について分かりやすく解説します。今回は、腎臓の機能を調べるための検査項目についてです。

尿素窒素(BUN)とは…なにがわかる？

尿素窒素(BUN)とは生命活動のエネルギーとして使われたタンパク質の老廃物の一種です。通常、ほとんどが腎臓でろ過されて尿中に排泄されますが、急性や慢性の腎不全などで腎臓のはたらきが低下すると、ろ過しきれない尿素窒素が血液中に残ってしまい、血液検査での結果が高値となります。また、タンパク質の取りすぎや、消化管出血、脱水症状など、腎機能低下以外でも高値となることがあります。

数値が低い場合はタンパク質の摂取不足や、尿素を作っている肝臓の機能低下などが考えられます。(当院の正常基準値 8～22mg/dl)

- ・高値の場合…腎機能障害、高タンパク食、消化管出血、脱水症など
- ・低値の場合…低栄養、重症肝障害など

クレアチニンとは…なにがわかる？

クレアチニンとは筋肉運動のエネルギー源となるアミノ酸の一種クレアチンが代謝されてできた物質で、尿素窒素と同様に老廃物のひとつです。クレアチニンも腎臓が正常にはたらいれば、尿として体外に排出されます。血液中のクレアチニンが多いということは、腎機能が障害されていることが考えられます。

筋肉運動の代謝産物であるため、筋肉量に比例した量となります。そのため、筋肉の病気を調べるときにも検査され、筋ジストロフィー症など筋肉が萎縮する病気があるときは低値となります。(当院の正常基準値 男性0.61～1.04mg/dl 女性0.47～0.79mg/dl)

- ・高値の場合…腎機能障害、腎炎など
- ・低値の場合…筋ジストロフィーなど

eGFRとは…なにがわかる？

eGFRとは推定糸球体ろ過量とも呼ばれ、腎臓が老廃物を尿へ排泄する能力を調べる検査です。上記の血液中のクレアチニン値と年齢と性別から算出されます。

近年増加中の慢性腎臓病(CKD)の診断に用いられます。

eGFRの判定基準

eGFR (ml/min/1.73m ²)	腎機能
90以上	正常
60～89	正常または軽度の腎機能低下
45～59	軽度～中等度の腎機能低下
30～44	中等度～高度の腎機能低下
15～29	高度腎機能低下
15未満	末期腎不全

糖尿病教室からのお知らせ

11月14日は世界糖尿病デーです。11月14日に近づくと、世界中で糖尿病に関するイベントや啓発活動が行われます。では、世界糖尿病デーは誰がどういった目的で定めたのでしょうか。糖尿病は、日本だけの病気ではありません。世界中で苦しんでおられる方がたくさんおられます。そのため2006年12月20日、国連総会議で「糖尿病の全世界的脅威を認知する決議」を可決し、インスリンを発見したカナダの医師、フレデリック・バンティングの誕生日である11月14日を世界糖尿病デーと決めました。

糖尿病のシンボルマークはブルーサークルですが、これは、国連や空を表す「ブルー」と団結を表す「輪(サークル)」を意味しています。当院でも受診される患者様に糖尿病について知っていただくきっかけ作りとして、11月に職員手作りのブルーサークルを外来待合に設置しています。

また世界糖尿病デー当日は、世界中で有名な遺跡建造物がブルーライトで照らされます。昨年京都では、東寺、京都タワー、二条城、京都府庁旧庁舎などがブルーライトで彩られていました。今年、いつもと違うライトアップを見に行きませんか。

糖尿病罹患の有無にかかわらず、青く照らされた建造物を見て、日々の生活習慣を見直し、健康で活動的な生活を送るきっかけ作りになっていただければと思います。



今後の教室開催スケジュール

開催日	担当
2014年 9月30日	織田 (理学療法士)
2014年10月21日	野口 (糖尿病内科医師)
2014年11月18日	吉見 (薬剤師)
2014年12月16日	原 (臨床検査技師)



9月30日は特別講師としてリハビリテーション科の織田先生(理学療法士)による運動療法についてのお話です。ふるってご参加下さい。



ふれあい看護体験記 2014年

7月23日に、ふれあい看護体験を実施しました。これは「看護の日」の記念行事であり、次代を担う中学・高校生をはじめ京都府・住民が医療機関関係者および患者様とのふれあいを通して、看護することや人の命について理解と関心を高める機会を提供することを目的としています。

今回で5回目となる今年は、京都府下の高校3年生2名の参加がありました。この2名は将来看護師志望であり、大きな興味を抱き臨んだ様子でした。

初めは緊張し堅かった表情も、患者様とふれあう中で笑顔になり、積極的に質問もありました。患者様の足浴やシーツ交換・食事の準備を体験しました。初めて血圧計や聴診器にも触れました。患者様はご自身のお孫さんと同年代の高校生に接し、普段なかなか見られないような満面の笑顔をされ、とても穏やかな空気が流れていました。

参加者の感想は「看護師さんの笑顔と振る舞いがかっこよかった」「一人一人に合わせた対応をされていた」「お年寄りが多いと思った、戦争の体験を語っておられた、つらい記憶はいつまでも残る、良い記憶も残る。良い記憶を与える人になりたい」等と述べていました。高校生の純粋な感性に触れ、私たち看護師も清らかな気持ちになります。

たった1日でしたが、ふれあい看護体験は、参加者が看護師になる目標と『憧れる看護師像』を、より具体的にすることが出来たのではないかと感じます。そして“生きること”や“働くこと”を考える機会になったのではないのでしょうか。

若い人たちが看護職に興味を抱いてくれることは、スタッフにとっても大きな励みとなります。

今後も地域の中高生に、有意義な体験の場を提供出来るよう、努めていきたいと考えます。



病院職員紹介



看護部
看護師

武田 絵奈

今年の夏は、近場ですが友達と白浜まで旅行に行ってきました。7月上旬という少し早めの旅行だったのですが、白良浜はすでに人が多くて驚きました。ちょうど台風が近づいていたため当日は雨が降っていたのですが、海で遊ぶとなると雨がやみ、痛いほどの快晴となりました！

私は食べるのが大好きで夕食を一番楽しみにしていたのですが、夕食の一番初めに食前酒として梅酒が出てきました。

お酒は苦手なほうなのですが、夕食を目の前にうきうきしていた私は、空きっ腹

にも関わらず一気に飲み干してしまいました。

すると徐々に気分が悪くなり…、

梅しらすごはんが食べられなかったことが唯一の心残りです。



地域連携医のご紹介

当院では、地域の医療機関と連携して、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み、地域医療の向上に貢献することを病院の基本理念として、患者様中心の医療を展開しています。そこで、本院と関係の深い、地域の連携医療機関を順次紹介させていただきます。

ぬくい泌尿器科医院

院長：温井 雅紀

住所：亀岡市追分町馬場通22-8 ABIL-II 2F
TEL：29-4401
標榜科目：泌尿器科
診療時間：午前9:00～12:30、午後5:00～7:30
火・土曜日の午後および木曜・日祝日休診

院長より一言

先日、市立病院設立の10周年記念式典に出席させて頂きました。

来賓の方々ほとんどが、病院の抱えた困難に関し、応援のメッセージを述べられていました。京都市内からそれほど離れていない公立病院が、常勤医に困窮する時代が来るとは僕たちが若かった頃には想像できなかった事に思います。近隣に大病院が控えているとは言え、今後高齢化のピークを迎える亀岡にとって、アクセスの良い信頼のおける公立病院が本当の意味で必要になって来ると思います。その時まで、院長先生をはじめとする職員の皆様が辛抱強く病院を育てていって下さればと存じます。斯く言う私もですが、10年来市立病院の外来に月に数回ですが勤務させて頂いており、現在は恐らく、最高平均年齢外来をやらせてもらっています。患者さんは多くはないですが、昔からずっと通院してもらっている方もあり、病院だけでは問題がある時は、自院の方に通院して頂く場合もあります。そういう意味で、病診連携を実践しており、患者さんにとって、市立病院にとって、当然自院にとって、三方良しでメリットのある連携が取れているとしたら、私にとって非常に光栄です。もう少しは、私が外来をしていても、役に立っているかもしれません。数年後には、あんな時もあったのかとと思っているでしょう。もう暫くは宜しくお願いします。



田村産婦人科医院

院長：田村 尚也

住所：亀岡市安町野々神28
TEL：24-3151
標榜科目：産婦人科
診療時間：午前9:00～12:00、午後6:00～8:00
木・土曜日の午後および日祝日休診

院長より一言

私の父親が昭和33年に南丹病院の産婦人科医としてこの口丹波に赴任して以来親子2代半世紀以上にわたりこの地で産婦人科医としてお世話になっております。

その間、昭和54年に当院が亀岡のこの地に開院し、以来多くの方々のご助力をたまわり、本年で36年目を迎えさせて頂いております。私が当院を継承して12年ですが、最近では当院にて出生された方々が親子二代にわたり、同じ分娩室にて分娩していただいております。私も親子2代が3代にわたりご縁をいただいていることもあります。周産期医療は開院以来当院の大きな柱であることは現在も変わりませんが、開院当初と現在ではその診療内容は変化しており、当院では不妊症を中心とした生殖医療に専門性を持ち包括的に対応しており、体外受精等の配偶子操作を含む医療をも当院分院(田村秀子婦人科医院)にて当院担当医が実施いたしており、卵子から新生児まで患者様に安心安全を実感していただける医療を心がけております。これまで支えていただきましたことに感謝し今後もこの地域での安心安全な産婦人科医療を提供すべく日々努力いたします。亀岡市立病院の開院は本当に有難く感じております。小児科での新生児心エコーでは的確な診断と対応をいただいております。外科には乳腺疾患を中心に丁寧に対応していただき詳細な報告と経過観察をいただき、継続的な病診連携の環境を作っていただいております。放射線科でのMRI、CT検査では効率的に対応していただき、治療への判断を遅滞なく行えることに感謝いたしております。

今後の亀岡市立病院の発展は地域医療の充実とその中心的存在としてきわめて重要と考えております。今後ともよろしくお願いたします。



編集後記

暑い毎日が続き、夏バテ気味の方も多いかと思いますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

猛暑日が続いた後の雨はいつもカラカラになりがちな花や植物が潤い、少し違う表情を見せてくれるようにも思えます。

七月下旬に初めて桔梗の里へ足を運んでみました。雨露で潤った桔梗は紫色が一層映え、心癒されるひとときとなりました。

もうしばらく厳しい暑さが続きそうですが、体調管理には十分気をつけてお過ごしください。

広報委員会 委員 和久 隆(主任診療放射線技師)

広報誌読者からのご意見等募集案内

本誌『桔梗』の表紙や挿絵に掲載させて頂く写真やイラストを募集させていただきます。テーマの規定はありません。みなさまより多数のご応募を心よりお待ちしております。採用、不採用に関わらず、写真やイラスト、画像データ等のご返却できませんのであらかじめご了承下さい。詳細につきましては、下記担当者までお問い合わせをお願い申し上げます。

【担当者】亀岡市立病院 病院総務課 谷 (平日、午前10時から午後3時まで)



JR馬堀駅から徒歩約5分/京都縦貫道篠インターから車で約5分/駐車(輪)場有

亀岡市立病院

〒621-8585 京都府亀岡市篠町篠野田1-1
TEL 0771-25-7313 FAX 0771-25-7312
<http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/access/index.html>

「がんばろう日本」～亀岡市は東日本の復興を支援します～